

外国語科に学びにくさのある 児童生徒の支援

2021年10月16日
甲南女子大学
村上加代子
itkayoko@icloud.com

学習障害とは

学習障害 (LD)とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

(文科省,2009)

LDがあれば、英語学習でも大きく躓くことが
予想される

ディスレクシア

英語圏ではディスレクシアが約10人に1人の割合で出現している。
ディスレクシアの主症状は単語の読み書きの困難さ（デコーディング・エンコーディング）に現れ、その主な原因として音韻意識の弱さが指摘されている。

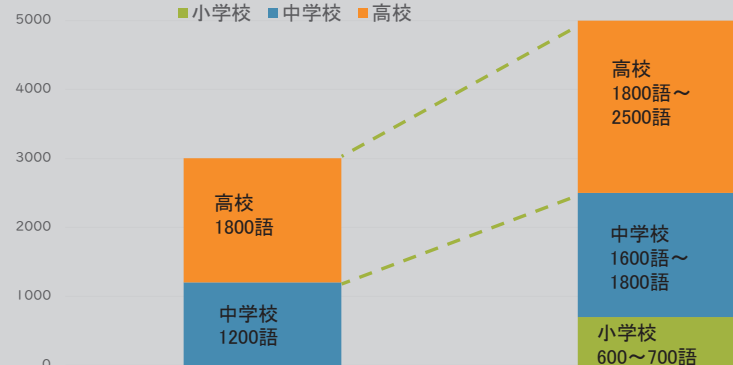
(参考: IDA 国際ディスレクシア協会)

言語によってディスレクシア出現率が異なる

学習語彙数の増加

語彙数 小学校から高校までの学習語彙数の変化

■ 小学校 ■ 中学校 ■ 高校

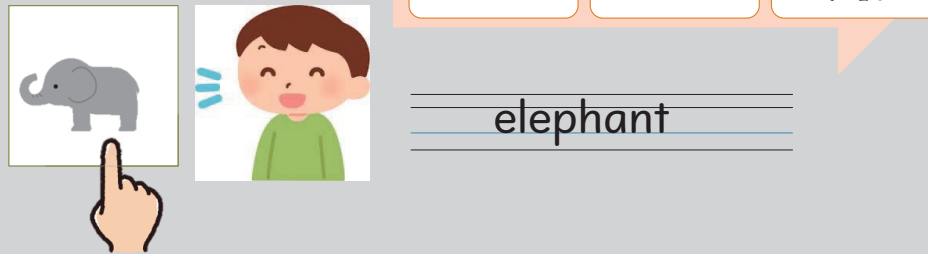


旧学習指導要領(～2019)

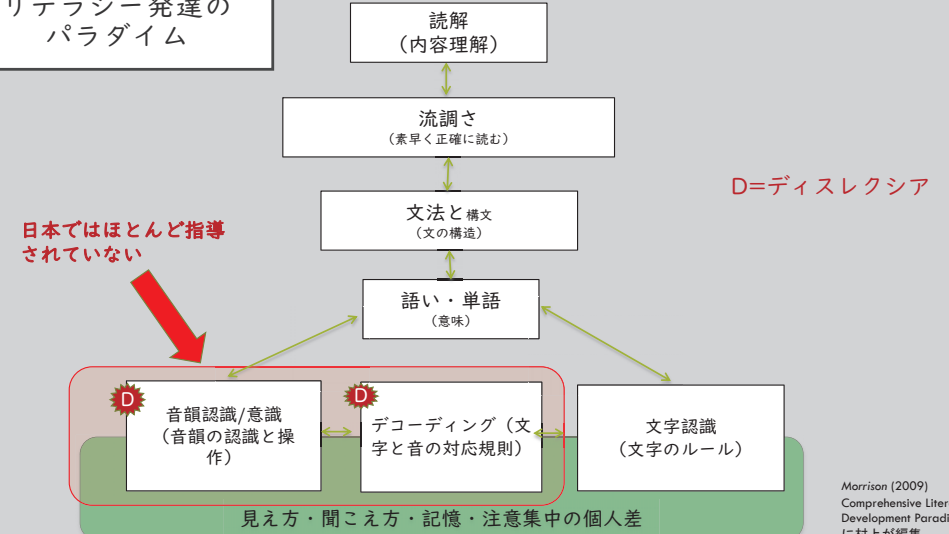
新学習指導要領(2021～)

書き指導の流れの例（6年次）

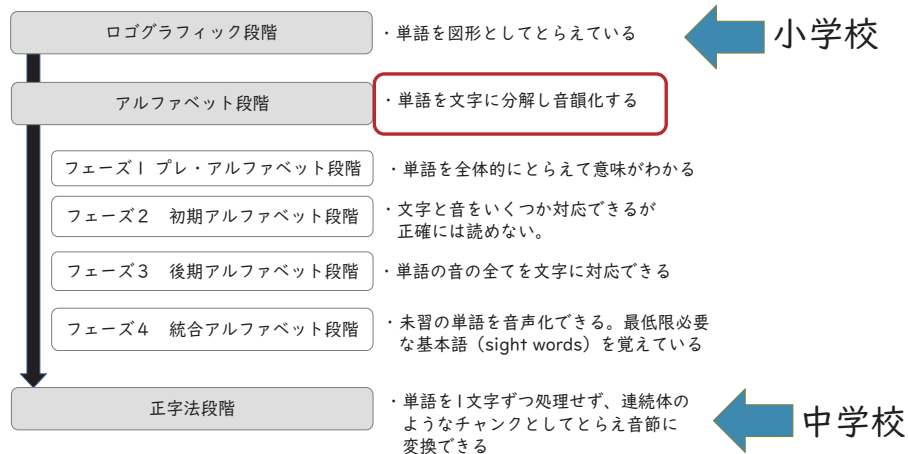
1. 指導者が単語を発音し、単語のイラストを指ささせる。
2. イラストを提示し、児童にその単語を発音させる。
3. チャンツに合わせて一緒に声に出させる。
4. 写し書きをする。



リテラシー発達の パラダイム



FrithとEhriの読み習得の段階図



Ehri, L. (1999). Phases of development in learning to read words. In J. Oakhill & R. Beard (Eds.), *Reading Development and the Teaching of Reading: A Psychological Perspective*, 79-108. Oxford, UK: Blackwell Publishers.

英語圏での読み書き指導

Learning to Read
(読むための学び)

読解
作文

文章を読み・作る

高学年

フォニックス
音韻意識

文字・単語を読む

低学年

Reading to Learn
(学びのための読み)

英単語読み書き指導のアプローチ 1

• Look and Say（見て言う）アプローチ

- 1930～1940年代に盛んに使われた手法
- 単語を「1ユニット」として提示する。子どもは単語の発音を繰り返しながら、文字を見る。（絵が添えられている場合もある）
- “sight read”という、単語をそれ以下の単位に分けない読み方

Look → Say → Write → Remember



英単語読み書き指導のアプローチ 2

• Phonics（フォニックス）アプローチ（synthetic phonics）

- 文字と音の対応関係を体系的、段階的に指導する手法
- 文字と音（音素）の対応知識に加え、操作スキル（つなぐ・わける等）を学ぶ
- まずアルファベット文字の“音”（sounds）を指導。「音がつながり語になる」ことを意識させ、文字をつないで読んだり、単語を文字の単位に分けて書いたりする。



アルファベットが四線に書けるまでのステップは？

- ☐ 文字を見分けることができる
- ☐ 文字の名前が言える
- ☐ 他の音と聞き分けることができる
- ☐ 文字の音が正しく言える
(他の音と言い分けることができる)
- ☐ 文字の音を聞いて書くことができる
- ☐ 文字を一線に書くことができる
- ☐ 文字を二線を使って書くことができる
- ☐ 文字を四線を使って書くことができる

ひとつひとつ、
確認する意識
と目を養う

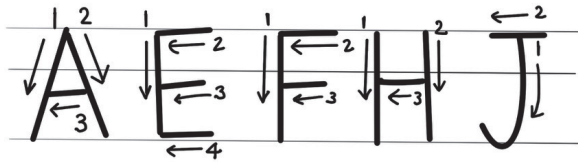
左利き児童への配慮



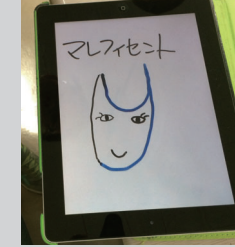
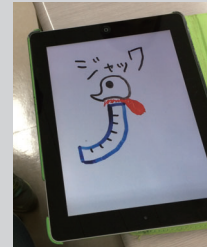
児童は左利きで、写し書きでは自分の手で見本の文字が見えなくなってしまうため、練習ノートの右はしか、上の部分に見本を書いておく。

左利き児童－大文字は書きやすさ重視

手前に引く動きにする



イメージ（絵）から文字形を思い出せるような工夫



この文字は、どんな形に見えるかな？何の絵にする？

ほかの人と見せあいっこしよう

四線指導は基線の使い方から

まず一線の上に小文字を書く
大文字・小文字とも、基線に文字のお尻がつくため、基線をしっかりと捉えていることが大切。

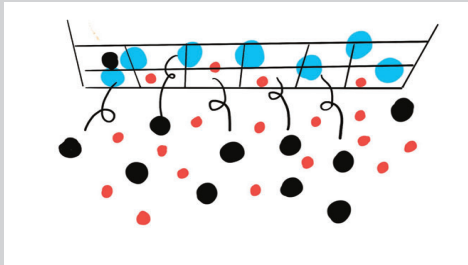
次に二線に増やし、小文字は「線から飛び出す」文字を指導。



ICTを活用しよう！

- 電子教科書
自分のペースで読める！自宅でも練習ができる！「音から文字」の学びに最適。
- フォニックス、音韻意識、単語アプリ
英語圏のアプリはさすがに子どもの弱いところを練習できるようにうまく設計されている。発音も良い。
- 発表などもICTを使って
人前で話すことが苦手な子は、自宅で録画をしてすることも可。
PPTなどの絵や写真を手掛かりに言葉を思い出すこともできる。

指導の「網の目」が粗すぎることで原因で
落ちこぼしを毎年量産している



● = 特別な支援をしなくても通常の授業の中で指導を工夫することが可能

● = 特別な指導・支援が必要



網の目を細かくし、●グループの学習者が通常学級で授業について行ける状態

● = 特別な指導・支援が必要

まとめ

1. 英語のつまずきは、指導の方法を見直すことで軽減される可能性が大いにある。
2. 「暗記ができなくて読めていない」のであれば、「読み方」を指導する。特に音韻意識とフォニックスは効果が高いことが英語圏だけでなく、日本でも報告されている。
3. 読み書きの領域はまだ知られていない事が多いため、既存の指導法にこだわらず、「どの子にとってもわかりやすい」指導や教材にどんどんチャレンジしていくことが大切